

たかくまだより

R8.6.20 第24号 高塚熊野神社



公式
インスタ



公式
HP



公式
X



ヤタカラ君

「たかつか熊野夏祭り」って何？

「たかつか熊野夏祭り」は、6月末の「**夏越の大祓**／**茅の輪**」から**夏詣**の期間、そして**七夕**へと続く、高塚熊野神社の夏の行事です。多くの方に御参詣いただきたく、「夏祭り」のポイントを以下に説明しましょう。

ポイント1 夏越大祓

大祓とは、心身の穢れや罪・過ちを祓い清める神事のことです。高塚熊野神社では、6月と12月の晦日に「大祓式」が斎行されます。この6月の大祓が「夏越大祓」です。

◆大祓式 6月30日(火) 雨天でも斎行
午後6時から神事、その後茅の輪くぐり
大祓式参列者には茅の葉と大祓のお札が授与されます。

ポイント2 茅の輪くぐり

「夏越大祓」では、境内に設置した大きな「茅の輪」をくぐって厄除けを行います。毎年、100名を超える地域住民の方々が大祓いに参列し、列をなして茅の輪をくぐります。



◆茅の輪 設置期間 6月28日(日)午後～7月7日(火)午前中
期間中はいつでも茅の輪くぐりができます。

ポイント3 夏詣

元日から「初詣」に行くように、「夏越の大祓」で茅の輪をくぐって清めた身で、翌日の7月1日から、残り半年間の平穏を祈るのが「夏詣」です。ぜひ、ご家族おそろいで夏詣にお越しください。



ポイント4 七夕まつり

7月1日(水)から7日(火)の期間、高塚熊野神社では境内に笹を立て、夜間竹灯りを灯します。短冊(無料)を用意しますので、どうぞ願い事を書いて笹に吊るしてください。

◆七夕祈願祭 7月7日(火)
午後7時～神事・巫女舞
短冊に書かれた願い事を、熊野の神さまにお届けするお祭りです。



「たかくまだより」のバックナンバーは、神社の公式ホームページやSNSからお読みいただけます。

今月の ON AIR

FMHaro!
「たかくまだより」



第4木曜17:30～
第23回放送

5月28日放送のFM Haro!「たかくまだより」は、伊勢市から戸塚昌宏宮司が電話で出演しました。戸塚宮司は伝統行事「お木曳き」に参加するために伊勢にいらつたことで、今月の放送は、この行事の紹介が主なテーマでした。



戸塚宮司と巫女の大城みなみさん

「お木曳き行事」は裏面にて解説しています。

トピックス 可美小3年生、校外学習



5月19日、可美小学校の3年生さんたちが総合学習の一環で、高塚熊野神社を訪れました。「地域を知ろう」という趣旨だそうです。普段神社に足を踏み入れないからか、子どもたちは物珍しそうに境内を散策していました。

今月の魅力 子ども会が境内草刈り



5月16日、高塚南・北子ども会が合同で、境内の北

斜面の草刈りを行ってくれました。雑草に覆われた斜面が、きれいに魅まりました。

総代さんたちも夏の草刈りを実施



6月7日、来たる「夏越大祓」に向けて、氏子総代の皆さんによる草刈りが行われました。

舞姫さん大募集

10月11日の例大祭に、お神楽を奉納しませんか

1. 条件＝高塚町在住もしくは町内出身のお子様(女の子)で、小中学生(高校生も可)。
2. 定員＝6～8名
3. 練習＝9月から。回数未定。



社務所までお申し込みください。☎ 053-448-2288

※裏面：特集記事「神宮式年遷宮とお木曳行事」

神宮式年遷宮とお木曳行事

本紙表面にて、戸塚昌宏宮司が「お木曳行事」に参加するために伊勢に赴いている、とお伝えしました。「お木曳行事」とは何なのか。その解説のためにはまず「神宮式年遷宮」から触れていきたいと思います。

式年遷宮はたくさんの神事・行事から成る

伊勢神宮（正式名は「神宮」）が20年に一度、社を建て替えることは皆さんもご存じでしょう。これを「神宮式年遷宮」*と呼び、令和15年（2033年）が第63回目です。

多くの方がイメージする式年遷宮は、壮大な建設工事と完工後の荘厳な儀式（神様にお遷りいただく「遷御の儀」）ではないでしょうか。

実は神宮式年遷宮は、令和7年（2025年）からすでに始まっていて、遷御までの9年間に下表のとおり、33の祭事・行事が行われます。神宮式年遷宮は、それら諸神事と造営事業を合わせた集会的な行事なのです。

令和7年（2025年）

- 5月 山口祭／木本祭
- 6月 御杣始祭／御樋代木奉曳式
- 9月 御船代祭

令和8年（2026年）

- 4月 御木曳初祭／木造始祭
- 5～7月 **お木曳行事**（第一次）
- 5月 仮御樋代木伐採式

令和9年（2027年）

- 5～7月 お木曳行事（第二次）

令和10年（2028年）

- 4月 鎮地祭

令和11年（2029年）

- 11月 宇治橋渡始式

令和14年（2032年）

- 3月 立柱祭／御形祭／上棟祭
- 5月 櫓付祭
- 7月 豊祭

令和15年（2033年）

- 7～8月 お白石持行事
- 9月 御戸祭／御船代奉納式／洗清／心御柱奉建／杵築祭
- 10月 後鎮祭／御装束神玉読合／川原大祓／御師／遷御／大御饗／奉幣／古物渡／御神楽御饗／御神楽



2013年10月の第62回神宮式年遷宮

9年間の祭りに全国が奉賛

昨年5月、神宮式年遷宮の始まりである「山口祭」が、伊勢神宮で斎行されました。

山口祭は、新社殿の御用材を山から伐り出す前、山のふもと（山の口）に鎮まる山の神様に対して工事の安全と伐採の許可を祈る祭りです。

全国から神職の方たちが参集、高塚熊野神社からは戸塚昌宏宮司が参列しました。

このように、社殿建築から神遷しまでの9年間、たくさんの祭儀とともに全国の多くの人に関わり、神宮式年遷宮が進んでいくのです。

伊勢市内が沸騰する民俗行事「お木曳」

「お木曳行事」とは遷宮のための御用材を奉曳車に積んで、神宮内に曳き入れるという、伊勢の民俗行事です。



遷宮諸行事のなかで一般市民（神領民）が関われる数少ない機会



で、市内に70を超える奉曳団があり、期間中は全市挙げての祭典となります。また特別神領民として市外からの参加希望に応じて、「太一」と号する大型の奉曳

車（車輪の直径が1.7m。車両重量4t。）が準備されています。

5月29日、高塚熊野神社関係者21名を含む浜松・浜名地区から105名がお木曳行事に参加しました。他にも沖

縄や岩手からの参加者合わせた700余名が、町衆の勇壮な「木遣り唄」が流れるなか、合いの手の声を発しながら外宮まで奉曳しました。



奉曳を終えたばかりの、浜松地区の参加者（一部）。

次の一般参加は、7年後のお白石持行事

高塚熊野神社の特別神領民として、神宮式年遷宮に一般参加できる次の行事は、7年後の「お白石持行事」です。

これは神宮式年遷宮の締めくくりとなる重要な神事で、新社殿の御垣内（一般の人が入れない垣根の内側）に、参加者個々が白い布に包んだ「お白石」を運び入れるというもの。

20年に一度の神事を、7年後、ぜひご体験ください。

* 例えば浜松最古の神社、蒲神明宮も式年遷宮を行う。
伊勢神宮の式年遷宮は特別に「神宮式年遷宮」と呼ばれる。